

単元名 ていねいに かんさつして、きろくしよう (B 書くこと)
「かんさつ名人に なろう」(光村図書)

目指す児童像 「思いや考えをもって伝え合い、楽しみながら学べる子」

1 主体的に学ぼうとするための手だて

① 生活科と関連させた単元構成「ゴールの明確化」

生活科と関連させた単元構成を児童に伝えたことで、児童が見通しをもちながら意欲的に学習に取り組むことにつながっていた。自分たちで観察物を選択できたことは意欲的な学習態度につながった。



② 観察する動植物の選択

協議会 自分で観察対象を選んだことは、子供の意欲を高めるのに、有効であった。

③ 児童による学習課題の設定

- ・ 児童に学習課題を考えさせたが、主体性という観点で効果があったかどうかの検証が難しかった。
- ・ 今後も学習課題の設定について研究を深めていく必要がある。

④ 児童の主体性を引き出す表現の場：「かんさつ名人になって よくぶつや生きものを かんさつ文にまとめよう。」

カリキュラムマネジメントを意識して、身に付けさせたい力を整理したことで、指導事項を明確にすることができた。良い文例と悪い文例を活用する場面やタイミングなどに課題が残った。



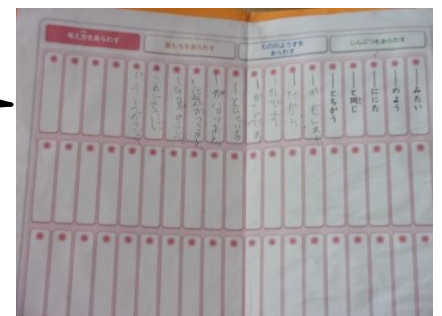
協議会 メモを基に観察文を書く際、良い文例を読んでから取り組んだ方がよい。どのような文を目指すのか明確になることで主体的に取り組むことにつながると思う。

2 自分の思いや考えを表現する力を身に付けるための手だて

① ことばのたからばこ

「ことばのたからばこ」は児童に新しく表現できる言葉を身に付けさせる上で、とても有効であった。今後も継続して使用させていく。

協議会 「ことばのたからばこ」の活用がよくできているようで子供たちは、その子の生活経験から生まれた言葉をよく使っていた。



② 短冊の活用

短冊を活用することで、書く内容を順に整理していくことができた。今後、ICT 機器 (ロイロノートなど) において活用の幅を広げていきたい。

協議会 ・短冊を写している児童が多かったように感じた。

